紡ぐ
くらしの
情報誌

バリバリ通信

2024 SUMMER
VOL.124

クロード・モネが愛した風景

太鼓橋まで睡蓮が咲く水の庭。水の庭には温帯性の睡蓮が8種類、熱帯性が12種類ほどある。
水面に花が開くのが温帯性、水面から茎が出て花が咲くのが熱帯性。
睡蓮は朝に咲き、午後にだんだんと閉じる性質があるので午前中の観覧がおすすめ。

世界で唯一「モネの庭」の名称を許された庭

印象派の画家クロード・モネが晩年を過ごし、代表作「睡蓮」を描いたフランス・ジヴェルニーの「モネの庭」。ジヴェルニー以外に世界で唯一「モネの庭」の名称を許された場所が高知県の北川村にある。北川村「モネの庭」マルモッタン―約三万平方メートルの敷地に約二千種類の草花が植栽され、四季折々の美しい景観を楽しむことができる。

テーマに沿って造られた三つの庭を見てみよう。モネが「睡蓮」を描いた庭を再現した「水の庭」は、日本風の太鼓橋や、藤や柳、桜といった日本になじみの深い樹木と色鮮やかな草花を配置している。モネは日本の芸術に強く影響を受けており、この庭にも至る所に日本らしさが見てとれる。その先を進むと現れる「ボルディゲラの庭」は、モネが地中海旅行で描いた絵の世界観からインスピレーションを得て表現したオリジナルの庭だ。ヤシやソテツなどの植栽と石畳や石垣が特徴的で、「リヴィエラの小屋」からは太平洋が一望できる。

駐車場を挟み、カフェやショップなどがあるエリアが「花の庭」だ。季節の花々が彩り豊かに咲き、花壇ごとに花色を変えた美しいグラデーションは見ごたえ十分。モネの庭は総じて「パレットのような庭」と評される。モネの画家人生に想いを馳せつつ、のんびりとした時間を過ごしてほしい。

しかし、なぜここ高知に「モネの庭」が存在しているのか。そもそも、北川村とモネとは何のゆかりもなかったという。

一九九〇年当時、過疎化による村の衰退に歯止めをかけたい北川村は、特産品のゆずを使ったワイナリー誘致計画を立てた。しかし、バブル崩壊の余波をうけ頓挫、残されたのは開発中の広大な土地だった。この土地を何とかせねばと頭を抱えていたところ、フランス・ジヴェルニーにある「モネの庭」の存在を知った人から、ここをフラワーガーデンにしてはどうかという提案が上がった。構想はまとまったものの、実現性も乏しく、何の伝手もないところから交渉をスタートする。無謀とも思える挑戦の始まりである。

案の定、初めてのフランス訪問ではまったく相手にされなかったそうだ。しかし、粘り強い交渉を重ねた結果、次第に村人の熱意が伝わる。クロード・モネ財団理事長の「ジヴェルニー村は、小さな村。そのジヴェルニーと同じような日本の小さな北川村が頑張っているということは大切にしなければならない。」の言葉により、北川

池の周りの白い石とヤシの木が地中海をイメージさせるボルディゲラの庭。

園内を彩る季節の花たち。

北川村「モネの庭」マルモッタン

（きたがわむら）

高知県安芸郡北川村

モネが夢見た「青い睡蓮」と呼ばれるもの。気候の関係でジヴェルニーでは咲かせることはできなかったが、温暖な北川村では6月下旬～10月頃まで美しい花を咲かせる。

北川村「モネの庭」マルモッタン

高知県安芸郡北川村野友甲1100番地 TEL.0887-32-1233

開園時間／9:00～17:00（最終入園16:30）
※火曜日はスイレンの手入れ作業の為、池にスタッフが入ります（5月～10月）。
休園日／6月～10月の第1水曜日・12月1日～2月末日
入園料／一般1,000円・小中学生500円・小学生未満無料
団体（10名以上）一般900円・小中学生450円

四国ガス燃料
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

手づくりパン工房の人気メニュー「はちきん地鶏バーガー」。

カフェモネの家では、地元の新鮮食材を使った料理を楽しめる。

ギャラリーでは名画の複製を展示。ショップには、モネグッズや地元商品が多数並ぶ。

ボルディゲラの庭にある眺めの良いカフェからは土佐湾が見える。

花の庭を彩るバラのアーチ。

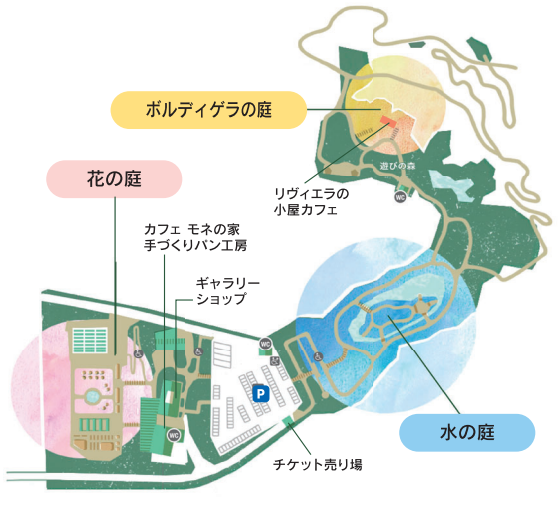
村への協力が決定、ようやく重い扉が開いたのである。数年にわたるジヴェルニーとの交流を通じて、相互理解が実り、それまで門外不出であった「モネの庭」の名称が贈られ、二〇〇〇年四月に開園した。

北川村「モネの庭」マルモッタンは、スタッフが現地へ足を運ぶなどして確かな情報を元に作りあげられた上に、「モネの庭」の庭園管理責任者の指導を受け、本家から株分けされた睡蓮や花の種苗を栽培するなど、その再現性は極めて高いレベルといわれている。しかし、ジヴェルニーと全く同じというわけではない。フランスと高知では気候風土や生態系が違い、咲く花の種類も当然異なる。そのため、北川村で育つ植物でモネの世界観を表現しているそうだ。

モネは睡蓮が咲く池を手入れする庭師を特別に雇い、「水面は鏡のように綺麗に」「睡蓮の広がりは丸い形に」というこまかな注文を出していたという。ここ北川村でも、モネの想いを受け継ぎ、睡蓮の開花期は週に一度欠かさず庭師が池に入り、水草や咲き終わった花、古い葉をすくって水面を綺麗にするための手入れをおこなっている。モネが夢みた「青い睡蓮」は、ジヴェルニーの気候では、育てることが難しかったが、温暖な北川村では六月下旬から十月頃まで美しい花を咲かせる。天国のモネも喜んでいることだろう。

モネが愛した庭は、その土地の自然を活かし、光と影を巧みに組み合わせた素朴さにあふれるものだった。庭は一見無造作に見えるが、これは庭師による十分な注意と丁寧な手入れによって保たれているナチュラルさである。庭師は、自然に見えるように、「手入れしすぎないこと」を完璧に実行しているのだ。

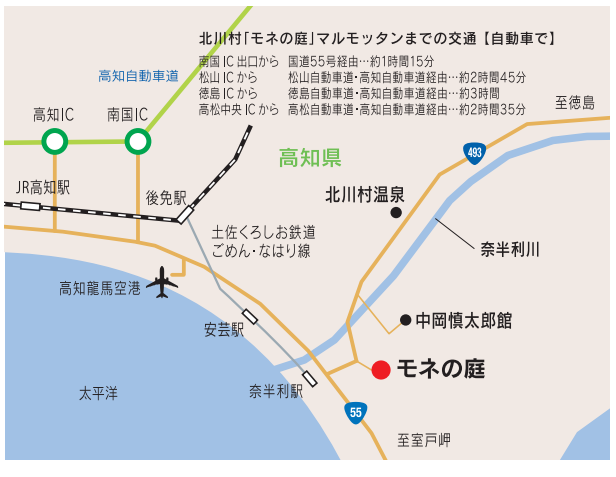
世界で唯一「モネの庭」を名乗ることを許されたこの場所は、公園でもフラワーパークでもない。モネが愛した「庭」である。「モネがこの庭を見て、絵を描きたいと思えるように守っていくことが使命」というスタッフのその言葉がすべてを物語る。開園から二十四年という歳月を積み重ねることで深みが生まれ、さらに魅力を増した北川村「モネの庭」マルモッタン。人口わずか千二百人の小さな村がつくった奇跡の庭は、今もモネの魂を宿し続けている。



お立ち寄りスポット

中岡慎太郎館

北川村出身の幕末志士、中岡慎太郎に関する歴史資料館。1階ではパネルや映像などで、慎太郎の情熱あふれる生涯を紹介。2階では慎太郎の遺品や、交流のあった志士たちの資料を中心に展示している。

高知県安芸郡北川村柏木140 TEL.0887-38-8600
開館時間／9:00～16:30 ※入館16:00まで
休館日／火曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月28日～1月2日）
料金／一般500円・小中学生300円・小学生未満無料

おみやげ紹介